



今村 定一

文学散歩道の拡充と 文学の町づくりを

担ってもらおうような考えはないか。

町民に知らせると共に友好を深め文化文学の町づくりに貢献して頂く考えはないか。

が、館の趣旨から好ましくないと答えられました。民俗資料館であっても展示物は観光資源的要素が高い展示物であり、チャンスは活かすべきだと思います。

①懸垂幕等受章者作品の展示を告知する考えはないか。

②受章者作品の特別企画展の開催等の考えはないか。

町長答弁

私はノーベル文学賞の「雪国」とあの絵をなぜ結びつけたのか不思議であり、説明を聞いても理解できなかった事を覚えている。

教育長答弁

懸垂幕は設置していませんが案内掲示はしています。懸垂幕や受章作品のアピール等については考えてみたいと思います。

平成16年には高山辰雄氏の「雪国の月」完成展の企画展を開催した経緯も有ります。新たな企画展ともなると費用対効果等を考えると大変難しい状況と考えています。

質問

答弁には理解しがたいところ

ろですが、日本画「雪国」についての認識を再度伺います。

町長答弁

ノーベル文学賞の雪国に挿絵が必要なのか、と言う最初の印象を述べたまで。高額な投資をして購入した絵で有りますから活用の仕方は考えて行かなければならないと思っています。

統合に向けての全体学習の充実と学習力のアップ対策

質問

現在着々と統合への検討会が進められていますが、平行して在学の児童たちに統合の意味や意義を、実際に体験することによって知り、考えてもらう事が必要と思う。今後の具体的取り組みについて、また統合までの間に学力差の解消と平均点アップの対策を教育長指示として示す事が出来ないか。

教育長答弁

現在検討委員会や校長会で協議が進められている段階であります。新年度には方向が示されると考えております。

質問

湯沢を好きだった作家吉村昭(2006年7月31日79歳没)氏と奥さんの津村節子氏、二地域居住の先駆者でもあるご夫妻。滞在の際には夜の居酒屋での一時が何より好きだったそうであります。生前に湯沢に墓を作ったほどです。時折奥さんが墓参りに来るそうですが、湯沢の人は吉村が眠っている事を知らないという合いの方への便りには書いて来るそうです。川端康成ゆかりの町として、文学の町としてもうたっている町にしては、関心が無さ過ぎると思います。御夫婦は議会だよりにも原稿を寄せています。「湯沢ぐらし」には津村氏も寄せています。こうした関係をもっと大事にするべきだと思います。吉村・津村両氏と友好を結び、文学の町づくりの一翼を

町長答弁

吉村昭氏とは生前お会いした事はありませんが、夫人の津村節子氏とは二地域居住の情報誌「湯沢ぐらし」を通じて友好関係を結び、吉村昭氏の三回忌の法要にはご一緒させて頂きました。雪国文学散歩道はあくまでも川端康成の小説「雪国」をテーマにした実在の場所を訪ねていただく散歩道であるため、吉村・津村両先生の世界とは別なものと考えております。

教育長答弁

質問を通じて、お二人と湯沢の関係を知ったところであり

質問

お二人と湯沢の関係を広く

雪国館所蔵絵画の作者のアピールと企画展の実施を

質問

日本画「雪国」14点の作者のなかに2名の文化勲章受章者があります。受賞後大々的にアピールをして懸垂幕を出してはと尋ねた事がありました